

【普通作物】の【台風】対策について

<7月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【早期水稻】（出穂期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 強風による茎葉の損傷や籾擦れが発生する。
- ② 倒伏による登熟不良や稲株の枯れが発生する。
- ③ 高温乾燥風での玄米の登熟障害や稲株の枯れが発生する。
- ④ 浸・冠水や土砂の流入が発生する。
- ⑤ 沿海部での潮風害が発生する。

（2）事前対策

- ① 倒伏や脱水症状の軽減のため、深水管理とする。
※但し、棚田等で畦畔崩壊の恐れのある場合は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ③ 成熟期にあるものは速やかに収穫する。

（3）事後対策

- ① 台風通過後も、吹き返しの高温乾燥風で生育障害が発生する場合があるので、風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、速やかに排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ いもち病や紋枯病、白葉枯病、ウンカ類の発生に注意し適宜防除する。
- ④ 倒伏した株は隣の株に乗せたりして、穂が地面に接しないようにする。
※倒伏の状態によっては、株を動かすと損傷を大きくするので注意する。
- ⑤ 倒伏により穂発芽や病害虫被害の恐れのあるところでは、早めに収穫する。
穂発芽等の被害箇所は刈分けして、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ⑥ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。
- ⑦ 潮風を受けた場合は、直ちに真水を散水し新しい用水を入れる。

【普通期水稻】（分けつ期～幼穂形成期）

（１）予想される被害状況

- ① 強風による茎葉の損傷が発生する。
- ② 浸・冠水や土砂の流入が発生する。

（２）事前対策

- ① 茎葉の損傷や脱水症状の軽減のため、深水管理とする。
※但し、棚田等で畦畔崩壊の恐れのあるほ場は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。

（３）事後対策

- ① 台風通過後も吹き返しの高温乾燥風がある場合、生育障害が発生する恐れがあるので、風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ いもち病や紋枯病、白葉枯病、ウンカ類の発生に注意し適宜防除する。
- ④ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。

【大豆】（播種期～生育初期）

（１）予想される被害状況

- ① 播種後の湿害等による発芽障害が発生する。
- ② 強風での茎葉の損傷や湿害での生育不良が発生する。

（２）事前対策

- ① 浸・冠水等の湿害に備え、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ② 中耕・培土の時期にあるほ場では、倒伏軽減のために土寄せする。

（３）事後対策

- ① 冠水したら速やかに排水し、侵食された畦は早めに土寄せする。
- ② 欠株が生じた場合は早めに追播きする。
- ③ 倒伏した株はできるだけ起こして、土寄せする。
- ④ ハスモンヨトウ等の病害虫の発生に注意し、適宜防除する。